

## 大阪地域の予防介入プログラムの評価と HIV 感染予防行動の関連要因に関する研究 -バー顧客調査・2007 年の結果-

主任研究者：市川誠一（名古屋市立大学大学院看護学研究科）

研究協力者：金子典代（名古屋市立大学大学院看護学研究科）、山田創平（財団法人エイズ予防財団/MASH 大阪）、ジェーン・コーナ、大森佐知子（名古屋市立大学大学院看護学研究科）、木村博和（横浜市健康福祉局）、鬼塚哲郎（京都産業大学/MASH 大阪）、辻 宏幸、後藤大輔（財団法人エイズ予防財団/MASH 大阪）、町登志雄、塩野徳史（MASH 大阪）

### 研究要旨

大阪地域の商業施設を利用する MSM を対象者に質問紙調査を行い、MASH 大阪の予防介入資材・プログラムの浸透度、HIV 感染予防行動への価値観や規範などの HIV 感染予防に関連する要因を年齢層別に評価した。

MASH 大阪がコミュニティペーパー SaL+等の資材を配布している商業施設に調査協力を依頼し、近畿居住の MSM966 名の回答を分析対象とした。年齢層を 20 歳未満、20-29 歳、30-39 歳、40-49 歳、50 歳以上の 5 つのカテゴリーに分類し分析した。

過去 6 ヶ月に読んだゲイ関連雑誌は年齢層によって異なり、また PC ネットや携帯サイトは年齢層が高くなるにつれて利用率が低くなる傾向にあった。

コミュニティスペース dista の認知は 38.8%で 2005 年調査（28.8%）より高く、特に若い年齢層で認知率が高くなっていた。また dista 訪問の割合も 2005 年の 5.2%に比べて 2007 年調査では 37.1%と著しく上昇した。

啓発イベント PLUS+の認知は、2005 年調査の 26.4%に比して 55.9%と 2 倍以上に上昇した。年次毎の PLUS+参加率は上昇し、2004 年（14.6%）に比べて 2006 年の参加率は 26.5%であった。

Dista で実施しているグループレベルのプログラム認知率は 10-20%で、参加した割合も 1-2%と低いが、各プログラムの参加率は年齢層で差異があり、step、café chat は若い層、語学教室、手話教室などは高い年齢層に多い傾向であった。

コミュニティ情報誌 SaL+の認知率は 63.7%とほぼ 2005 年調査と同率であった。しかし 2007 年調査では 50 歳以上の年齢層でも 54%の認知率であることがわかった。

HIV 関連知識の正答率は 2005 年調査とほぼ同程度であった。50 歳以上の層はいずれの項目も他の年齢層に比して正答率が低かった。

生涯の HIV 検査受検率は 53.6%で、50 歳以上は 26.4%と低かった。過去 1 年間の HIV 抗体検査受検率は 29.1%で、20 歳代は 34.0%と高かった。

HIV 検査の受けやすい場所は、病院・医院を挙げる者が 37%と最も多く、検査に行きやすい曜日は日曜日 28.2%、土曜日 22.8%、月曜日 9.7%で、時間帯は 13 時から 17 時 40.9%、18 時から 20 時 36.2%であった。

生涯の性感染症に罹患経験率は 37.3%で、40 歳以上において高かった。過去 1 年間の性感染症

罹患経験率は5.9%で、若い者ほど高い傾向にあった。

過去6ヶ月に特定パートナーとアナルセックスを行った割合は52.3%で、コンドーム常用率は挿入時では35.8%、被挿入時では32.9%であった。過去6ヶ月にその場限りの相手とアナルセックスを行った割合は40.6%で、コンドーム常用率は挿入時45.7%、被挿入時40.8%であった。

特定相手とのセックスにおけるコンドーム常用意図は低く、その場限りの相手とのセックス時の常用意図が高い傾向がみられた。また、年齢の高いものほどアナルセックス時のコンドーム常用意図は低く、「相手からコンドームなしでセックスをすることを求められると断りにくい」の回答割合が高かった。

本調査は2005年にも同様の調査を実施しており年次の差異についてさらに検討する。特に、コンドーム使用行動を行動変化ステージ別に分類し、予防啓発資材の接触率やHIV予防の価値観、予防行動の規範との関連を分析し、予防介入プログラムの介入評価資料を得る。

## A. 研究目的

本研究では、大阪地域の商業施設を利用するMSMを対象者とした質問紙調査をもとに、1) MASH 大阪の予防介入資材・プログラムの浸透度、HIV感染予防行動への価値観や規範などのHIV感染予防に関連する要因を年齢層別に分析すること、2) 対象者のコンドーム使用行動を行動変化ステージ別に分類しステージと予防啓発資材の接触率やHIV予防の価値観、予防行動の規範との関連を分析し予防介入プログラムの介入評価資料を得ること、3) 2005年に実施した同調査との差異について検討することを目的とした。

## B. 研究方法

MASH 大阪がコミュニティーペーパーSaL+等の資材を配布している商業施設に調査協力を依頼し、調査協力の同意が得られた69店舗に1700部の質問紙配布を依頼した。質問紙の配布・回収方法については、商業施設のオーナーから顧客への直接手渡しを依頼し、顧客からは直接郵送にて質問紙を回収する方法をとった。対象者には謝礼として商業施設で使用可能なチケットと抽選でアンダーウェアが当選する仕組みとした。全有効回答数は1063(回収率62.5%)であった。質問紙構成は(1)基本属性、(2)MASH大阪が行っている予防

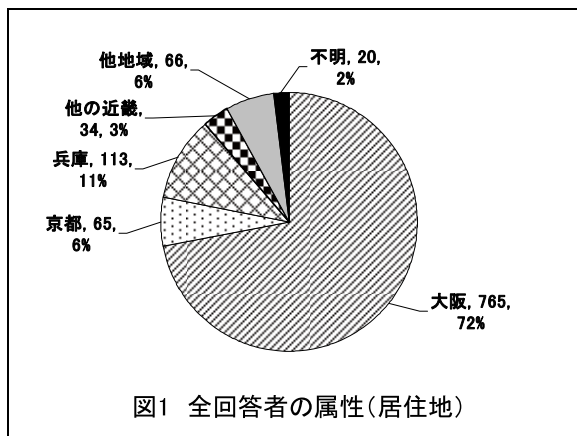
介入プログラムへの接触状況、(3)HIV感染予防に関連する知識および意識、(4)HIV抗体検査受検、(5)性感染症の既往、(6)性行為経験およびコンドームの使用頻度、(7)性交時の併用品などであった。本報告では、近畿に居住し、性指向をゲイまたはバイセクシュアル、わからないと自認している、または男性と性行為の経験があると回答した966名の回答のみを分析の対象とした。年齢層は20歳未満、20-29歳、30-39歳、40-49歳、50歳以上の5つのカテゴリーに分類し、質問項目を年齢カテゴリー別に分析した。

データの集計および統計処理にはSPSS11.5J(Windows)を用いた。

## C. 研究結果

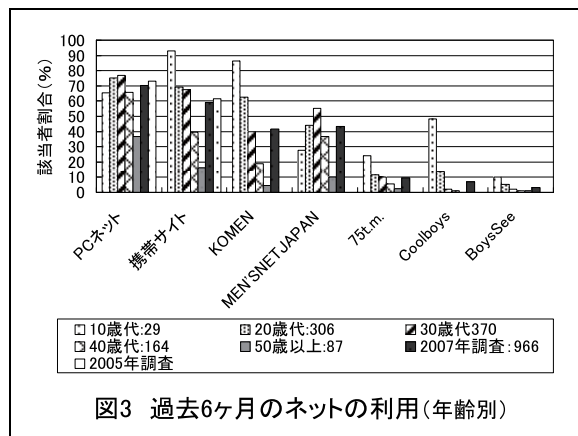
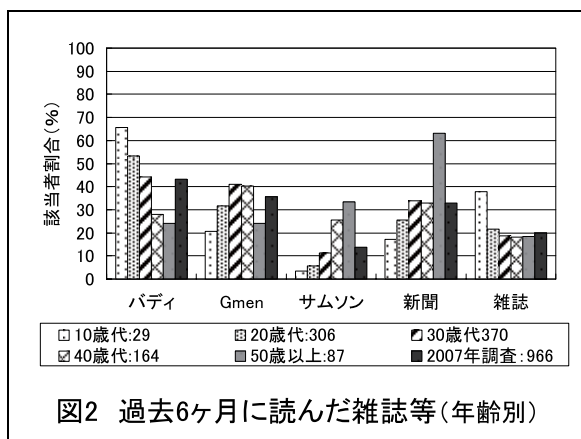
### 1) 2007年バー顧客調査回答者の属性

回答者1063名の属性分布を図1に示した。居住地域は大阪が72%、次いで兵庫が10.6%、京都が6.1%、他の近畿地域が3.2%、その他の地域が6.2%であった。性的指向はゲイが84.7%、バイセクシュアルが9.3%で、ゲイ・バイセクシュアル男性もしくはアナルセックスの経験を有するゲイ/MSM(以下、MSM)は、1043名(98.1%)であった。

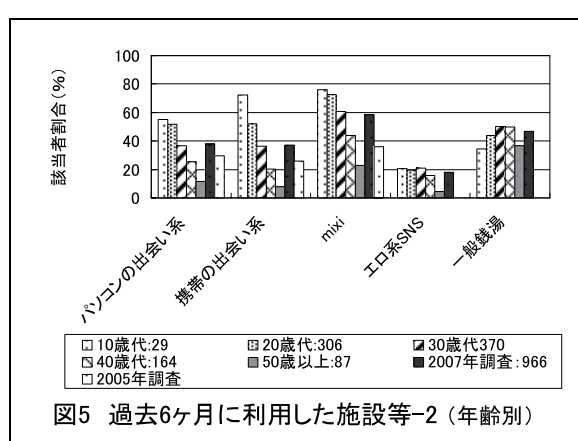
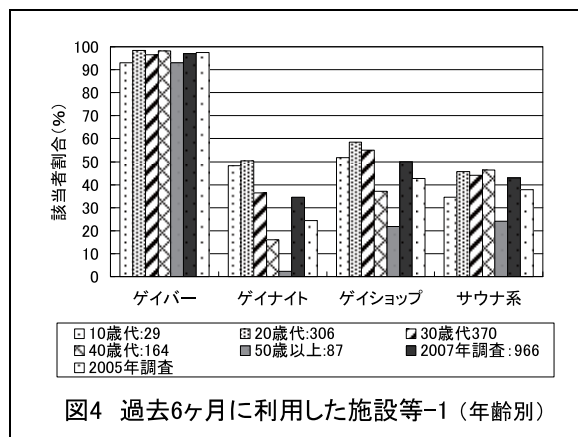


## 2) MSM の年齢階級別・情報媒体等について

近畿地域に居住する MSM966 名について年齢階級別に調査項目を分析した。情報媒体についてみると、過去6ヶ月に読んでいる雑誌は年齢層によって異なり、ボディは20歳前後の若年層に多く、Gmenは30歳代、40歳代、サムソンは40歳代、50歳以上の層に多い(図2)。またPCネットや携帯サイトは年齢層が高くなるにつれて利用率が低くなる傾向にあり、利用しているサイトの種類は雑誌同様に年齢層によって異なっている(図3)。啓発プログラムの広報を行う場合、これらの年齢層による違いを考慮して雑誌やネットを活用することが必要である。



本調査はゲイバー顧客を対象にしたものであるが、過去6ヶ月に利用した施設は年齢層によってことなり、若い年齢層に比べると40歳以上の年齢層ではゲイナイト、ゲイショップ、ハッテン場、出会い系サイト等の利用が低い(図4、5)。

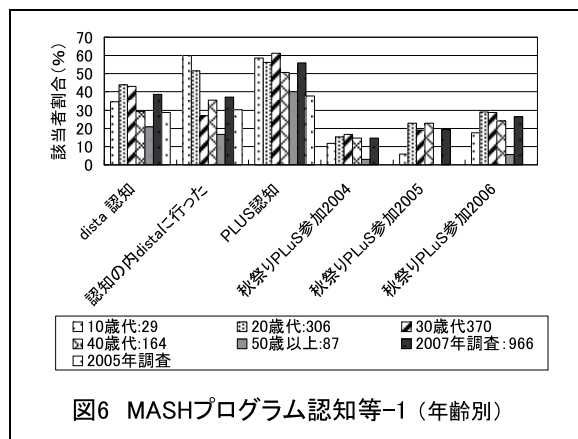


## 3) MSM の年齢階級別・MASH 大阪プログラム 認知、HIV 知識正答率・HIV 関連情報媒体

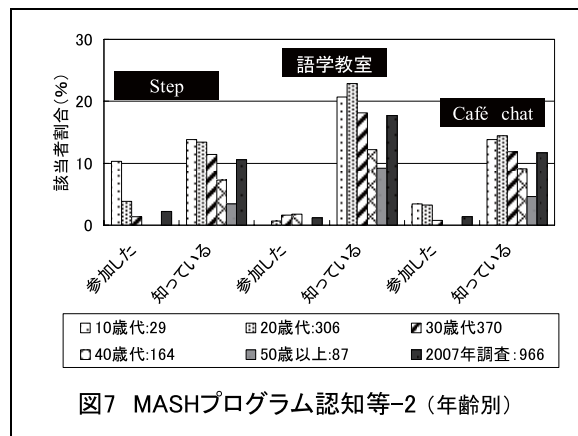
コミュニティスペース dista の認知は

38.8%で2005年調査の28.8%より高くなっていた(図6)。20歳代の認知率は2005年調査の35.5%が2007年調査では43.8%に、30歳代では25.9%が43.2%に、40歳代では22.9%が29.3%に上昇し、若い年齢層で認知の向上が著しいことが伺える。また認知しているものの中でdistaを訪れた割合も2005年の5.2%に比べて2007年調査では37.1%と著しく上昇しており、幅広い年齢層がdistaを訪れるようになっていた。一方で、MASH大阪のホームページの認知は2005年調査では14.5%で、2007年調査でも18.3%とそれほどの変化は見られていない。

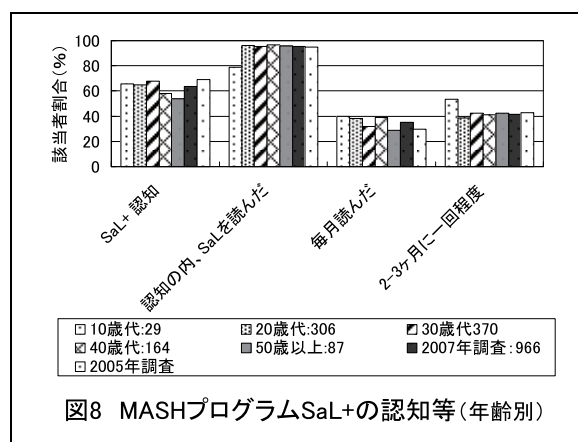
啓発イベント「PLUS+」の認知は、2005年調査の26.4%に比して55.9%と2倍以上の認知となっていた(図6)。このことは、各年次の参加率にも現れており、2004年のPLUS+参加率は14.6%で、その後年毎に上昇し、2006年のPLUS+参加率は26.5%と4人に1人は参加していた。



dista を中心に行っているグループレベルでのプログラムの認知率は10-20%で、参加した割合も1-2%であった(図7)。しかし、各プログラムにおいて参加率に年齢による差異が見られ、step、café chatは若い層、語学教室、手話教室などは高い年齢層に多い傾向にあった。

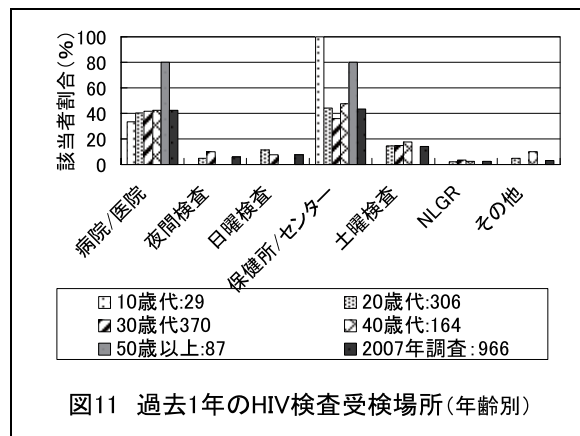
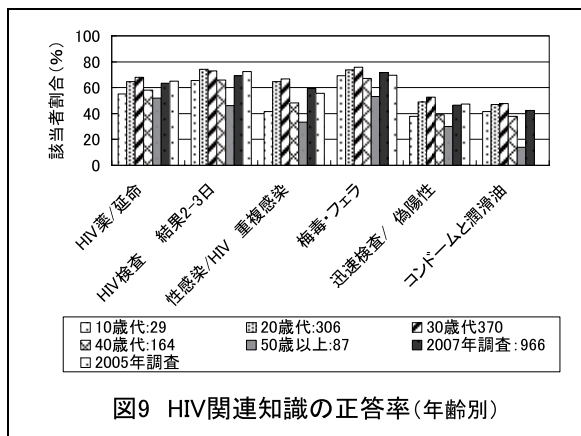


コミュニティ情報誌 SaL+の認知率は63.7%とほぼ2005年調査と同率であった(図8)。しかし2005年調査では50歳以上での認知率が明らかにされなかったが(回答者が少なかったため)、2007年調査ではこの年齢層のSaL+認知率が54%で、およそ半数が認知していることがわかった。またどの年齢層も認知している者の殆どが読んでおり、1/3は毎月発行のSaL+を読んでいることが示された。



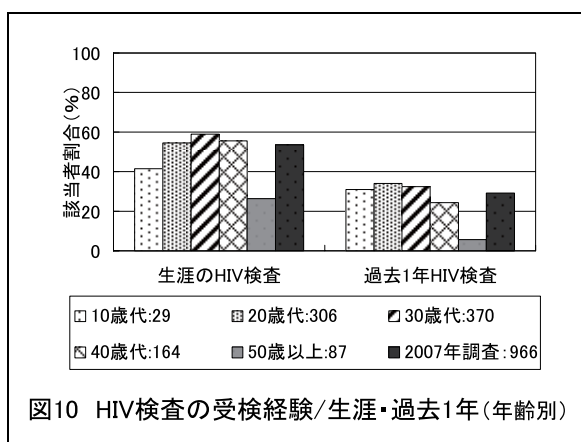
#### 4) HIV 関連知識の正答率

HIV 関連知識の正答率は2005年調査とほぼ同程度であった。コンドームの耐性について、迅速検査に関する偽陽性に関する正答率が他の項目に比して低率であった(図9)。また50歳以上の層はいずれの項目も他の年齢層に比して正答率が低かった。



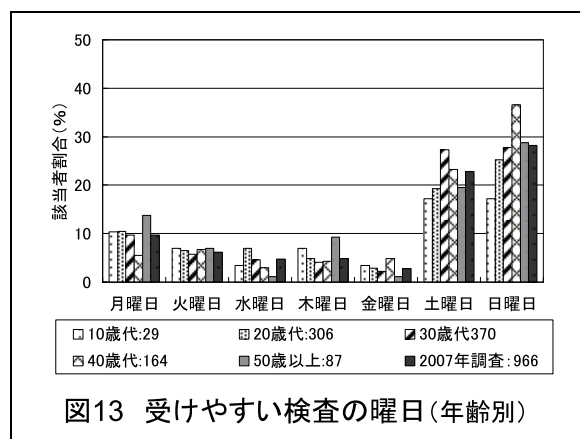
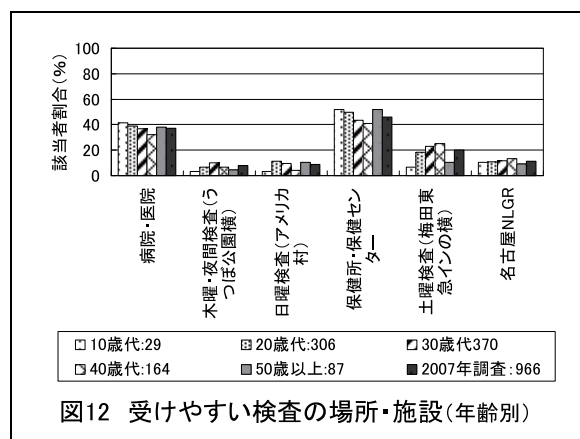
### 5) HIV 抗体検査受検

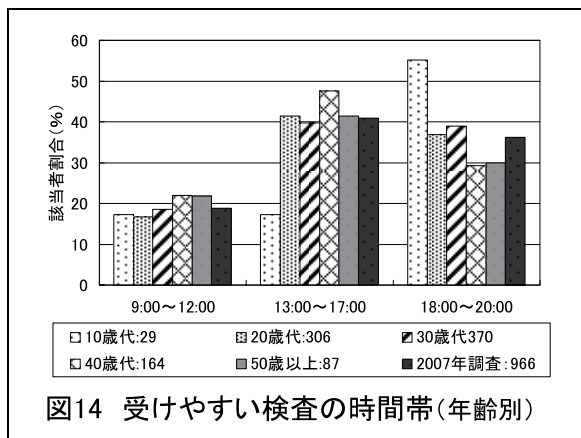
生涯でのHIV検査受検率は全体では53.6%で、30歳代が58.9%、40歳代55.5%、20歳代54.6%、10歳代41.4%、50歳以上26.4%であった(図10)。過去1年間のHIV抗体検査受検率は全体で29.1%(2005年調査28.2%)であり、受検率は年齢層が低いほど高く20歳代では34.0%(2005年調査35.0%)であった。



検査を受検した場所は保健所、病院・医院が多かったが、年齢層との関連はみられなかった(図11)。過去1年間に受検経験のあるもののうち土曜検査で受検した割合は40歳代に最も多かった。またHIV自宅検査キットやHIV郵送検査の利用者は全対象者のうち1.9%(2005年調査1.5%)であった。

HIV検査について受けやすい条件に関する項目を新設した。受けやすい場所としては、病院・医院を挙げる者が37%と最も多く、ついで保健所25.6%であった(図12)。HIV検査で行きやすい曜日は、日曜日28.2%、土曜日22.8%、月曜日9.7%で(図13)、行きやすい時間帯は13時から17時40.9%、18時から20時36.2%であった(図14)。





## 6) 性感染症の既往

生涯で性感染症に罹患した経験のあるものの割合は全体で 37.3% (2005 年調査 29.9%) であり、40 歳以上において高かった。ケジラミが 23.9%、梅毒 9.1%、淋病 7.5%、クラミジア 6.6%、B 型肝炎 5.6%、A 型肝炎 1.4%、HIV、アメーバ赤痢 1.3% であった。ケジラミの既往歴はどの年齢層も 20% を超えていた。なお、過去 1 年間の性感染症に罹患した経験は 5.9% で、若い者ほど高い傾向にあった。

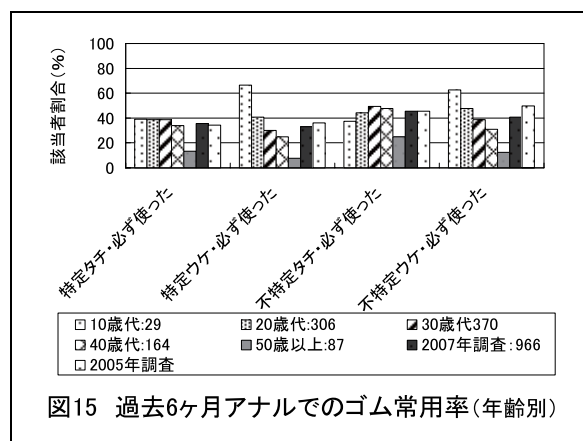
## 7) HIV に感染する可能性の認知、HIV 感染者の知人の有無

自身の行動を振り返って HIV 感染のリスクがどのくらいあるかを「絶対ない」から「十分可能性がある」の 4 段階と「わからない」の 5 項目を用いてたずねたところ、回答に年齢層との関連が見られた。「十分可能性がある」と回答した割合は若い年齢層に多い一方で、「絶対ない」と回答している割合も 20 歳代において高かった。「あなたのまわりに HIV に感染した友達や知り合いがいますか？」の問いに対して「いる」と回答した割合は、10 歳代が 41.4%、次いで 20 歳代が 38.2%、30 歳代が 37.8% であった。

## 8) 性行為経験とコンドーム使用について

これまでに「男性とアナルセックスの経験がある」と回答した割合は 88.7% で、30 歳代、40 歳代において 90% を超えていた。

過去 6 ヶ月に特定パートナーとアナルセックスを行ったと回答したものの割合は 52.3% で、年齢層が低いほど経験割合が高かった。特定パートナーとのコンドームの常用率は挿入時では 35.8%、被挿入時では 32.9% であった (図 15)。過去 6 ヶ月にその場限りの相手とアナルセックスを行ったと回答したものの割合は 40.6% で、年齢層が低いほど経験割合が高かった。その場限りの相手とのコンドームの常用率は挿入時 45.7%、被挿入時 40.8% で、特定の相手との常用率よりともに高い傾向がみられた。



## 9) コンドームの使用意図

特定、その場限りの相手別のオーラルセックス、アナルセックス時のコンドーム常用の意図を「使いたくない」から「毎回使いたい」の 5 段階にて尋ねた。その結果、全体の傾向として、特定相手とのセックスにおけるコンドーム常用意図は低く、その場限りの相手とのセックス時の常用意図が高い傾向がみられた。またアナルセックス時のコンドーム常用意図には特定相手、その場限りの相手ともに年齢層との関連が見られ年齢の高いものほど低かった。「相手からコンドームなしでセックスをすることを求められると断りにくい」と回答したものの割合は年齢層が高いほど高かった (表 1)。

表1 HIV 感染予防行動に関する意図について (年齢別)

項目	n	年齢階級										合計			
		10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代以上		不明		n	%
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%		
Q37-1 HIVに感染している場合は早めに知ることがメリット															
大変強く思う	27	93.1	233	76.1	281	75.9	115	70.1	53	60.9	5	50.0	714	73.9	
強く思う	0	0.0	38	12.4	53	14.3	32	19.5	19	21.8	1	10.0	143	14.8	
やや思う	0	0.0	26	8.5	25	6.8	10	6.1	10	11.5	2	20.0	73	7.6	
あまり思うわない	1	3.4	5	1.6	5	1.4	1	0.6	2	2.3	0	0.0	14	1.4	
全く思うわない	0	0.0	1	0.3	3	0.8	2	1.2	0	0.0	1	10.0	7	0.7	
無回答	1	3.4	3	1.0	3	0.8	4	2.4	3	3.4	1	10.0	15	1.6	
Q37-2 自分がHIVに感染しているときは早めに知りたい															
大変強く思う	25	86.2	224	73.2	272	73.5	116	70.7	57	65.5	5	50.0	699	72.4	
強く思う	2	6.9	38	12.4	49	13.2	28	17.1	20	23.0	2	20.0	139	14.4	
やや思う	1	3.4	31	10.1	31	8.4	11	6.7	5	5.7	2	20.0	81	8.4	
あまり思うわない	0	0.0	7	2.3	11	3.0	3	1.8	2	2.3	0	0.0	23	2.4	
全く思うわない	0	0.0	3	1.0	4	1.1	2	1.2	0	0.0	1	10.0	10	1.0	
無回答	1	3.4	3	1.0	3	0.8	4	2.4	3	3.4	0	0.0	14	1.4	
Q37-3 ゴム使用は安心してセックスを楽しめる															
大変強く思う	5	17.2	69	22.5	96	25.9	25	15.2	12	13.8	1	10.0	208	21.5	
強く思う	2	6.9	46	15.0	59	15.9	37	22.6	22	25.3	0	0.0	166	17.2	
やや思う	13	44.8	114	37.3	127	34.3	52	31.7	31	35.6	5	50.0	342	35.4	
あまり思うわない	7	24.1	54	17.6	57	15.4	35	21.3	15	17.2	1	10.0	169	17.5	
全く思うわない	1	3.4	20	6.5	25	6.8	10	6.1	4	4.6	2	20.0	62	6.4	
無回答	1	3.4	3	1.0	6	1.6	5	3.0	3	3.4	1	10.0	19	2.0	
Q37-4 エイズを楽観するゲイ友人が多くなった															
大変強く思う	3	10.3	28	9.2	28	7.6	6	3.7	1	1.1	1	10.0	67	6.9	
強く思う	5	17.2	21	6.9	23	6.2	12	7.3	4	4.6	0	0.0	65	6.7	
やや思う	11	37.9	85	27.8	97	26.2	53	32.3	33	37.9	2	20.0	281	29.1	
あまり思うわない	8	27.6	119	38.9	146	39.5	58	35.4	27	31.0	4	40.0	362	37.5	
全く思うわない	1	3.4	49	16.0	68	18.4	27	16.5	18	20.7	2	20.0	165	17.1	
Q37-5 以前に比してゴム使用のゲイ友人が多い															
大変強く思う	4	13.8	42	13.7	57	15.4	16	9.8	5	5.7	0	0.0	124	12.8	
強く思う	5	17.2	63	20.6	69	18.6	23	14.0	11	12.6	2	20.0	173	17.9	
やや思う	9	31.0	106	34.6	157	42.4	63	38.4	29	33.3	3	30.0	367	38.0	
あまり思うわない	8	27.6	71	23.2	66	17.8	41	25.0	23	26.4	2	20.0	211	21.8	
全く思うわない	2	6.9	17	5.6	10	2.7	12	7.3	11	12.6	2	20.0	54	5.6	
無回答	1	3.4	7	2.3	11	3.0	9	5.5	8	9.2	1	10.0	37	3.8	
Q37-6 以前に比してHIV偏見のゲイが少なくなった															
大変強く思う	6	20.7	41	13.4	32	8.6	3	1.8	2	2.3	1	10.0	85	8.8	
強く思う	3	10.3	55	18.0	48	13.0	24	14.6	7	8.0	1	10.0	138	14.3	
やや思う	8	27.6	115	37.6	153	41.4	61	37.2	36	41.4	4	40.0	377	39.0	
あまり思うわない	10	34.5	69	22.5	96	25.9	55	33.5	25	28.7	1	10.0	256	26.5	
全く思うわない	1	3.4	18	5.9	33	8.9	13	7.9	9	10.3	2	20.0	76	7.9	
無回答	1	3.4	8	2.6	7	1.9	8	4.9	8	9.2	1	10.0	33	3.4	
Q37-7 相手がナマを望むとゴムを使うことがいけない															
大変強く思う	3	10.3	27	8.8	23	6.2	8	4.9	4	4.6	1	10.0	66	6.8	
強く思う	2	6.9	22	7.2	24	6.5	16	9.8	17	19.5	1	10.0	82	8.5	
やや思う	6	20.7	77	25.2	92	24.9	42	25.6	34	39.1	4	40.0	255	26.4	
あまり思うわない	9	31.0	81	26.5	113	30.5	42	25.6	12	13.8	0	0.0	257	26.6	
全く思うわない	8	27.6	94	30.7	112	30.3	50	30.5	14	16.1	4	40.0	282	29.2	
無回答	1	3.4	4	1.3	6	1.6	6	3.7	5	5.7	0	0.0	22	2.3	
Q37-8 付き合いが長いとゴム不使用になりがち															
大変強く思う	7	24.1	41	13.4	48	13.0	21	12.8	13	14.9	1	10.0	131	13.6	
強く思う	6	20.7	54	17.6	65	17.6	38	23.2	25	28.7	4	40.0	192	19.9	
やや思う	5	17.2	88	28.8	123	33.2	54	32.9	29	33.3	2	20.0	301	31.2	
あまり思うわない	6	20.7	56	18.3	75	20.3	28	17.1	12	13.8	0	0.0	177	18.3	
全く思うわない	4	13.8	63	20.6	51	13.8	16	9.8	4	4.6	2	20.0	140	14.5	
無回答	1	3.4	4	1.3	8	2.2	7	4.3	4	4.6	1	10.0	25	2.6	
Q37-9 ドラック/アルコールのときはゴムが使用しにくい															
大変強く思う	5	17.2	36	11.8	35	9.5	16	9.8	5	5.7	1	10.0	98	10.1	
強く思う	3	10.3	36	11.8	32	8.6	25	15.2	16	18.4	1	10.0	113	11.7	
やや思う	7	24.1	85	27.8	116	31.4	40	24.4	38	43.7	3	30.0	289	29.9	
あまり思うわない	7	24.1	71	23.2	103	27.8	40	24.4	12	13.8	1	10.0	234	24.2	
全く思うわない	6	20.7	73	23.9	77	20.8	36	22.0	10	11.5	3	30.0	205	21.2	
無回答	1	3.4	5	1.6	7	1.9	7	4.3	6	6.9	1	10.0	27	2.8	

## D. 考察

MASH 大阪が予防啓発のアウトリーチ活動を行っているクライアントに対して、商業施設の協力を得て精密な質問紙調査を実施した。2005年に初めて試み、今回は2回目の調査となった。前回よりも協力施設が増え、また比較的高い回収率を得ることができた。啓発資材をアウトリーチしている商業施設の顧客を対象に直接の質問紙調査を実施することで、より詳細な活動の評価や新たなニーズの掘り起こしが可能となると考える。今後も方法に改良を重ねながら、このような調査を継続的に実施していくことでMSMに対するHIV/STI感染予防活動の評価が可能になると考える。

コミュニティペーパーSaL+は、ゲイバー顧客の殆どが手に取り読んでいることが今回の調査で明らかになった。また、扇町公園を利用した市民参加型の啓発イベントの認知も年々高まり、参加率も上昇している。コミュニティセンターdistaの認知や訪問も上昇しており、MASH大阪の啓発活動は商業施設を中心に浸透していることが伺える。しかし、年齢の高い層の参加が低い傾向にあり、これらの層を意識した新たな取り組みを考える必要があると思われる。

今回の調査から、予防活動の達成度を評価する一方で、介入が行き届いていない層（高年齢層）を明確化することができた。この層に対していかに効果的に働きかけるかを考案していく必要がある。

## E. 結語

MASH 大阪が予防啓発のアウトリーチ活動を行っているバー顧客に対して、商業施設の協力を得て質問紙調査を実施した。バー顧客を対象とする本調査は2005年に初めて試み、今回は2回目の調査となった。

前回よりも協力施設が増え、また比較的高い回収率を得ることができた。その結果50歳以

上の年齢層の回答が増え、そのニーズが見えた。

コミュニティセンターdistaの認知や訪問、大型啓発イベントPLUS+の認知と参加など、一部の啓発プログラムは2005年調査に比して認知率、参加率が向上していた。また、啓発の情報媒体、関連知識、検査行動、予防行動に、若年層と高年齢層で差異が見られ、年齢により訴求性を考慮したプログラムや普及方法が求められる。

直接クライアントに対して質問紙調査を実施することで、より詳細な活動の評価や新たなニーズの掘り起こしが可能となると考える。